

Roadmap to Carbon Neutral

商品・サービスやコンサルティングの提供と投融資を通じて、脱炭素化に必要な技術の開発や実装を支援し、脱炭素社会への移行に貢献していきます。

自社事業を通じて排出する温室効果ガス排出量は2040年度までにネットゼロ^(※1)をめざします。それぞれの取組は「MS Green Index」を設定し、その進捗を測定・管理していきます。

1 Green Underwriting / Services (グリーン商品・サービス)

社会の脱炭素化、自然資本・生物多様性の保全・回復に資するグリーン商品・サービス^(※2)を開発・提供

ESGを考慮した保険引受

(2022-2025)

グリーン引受^(※3)の年平均増収率18%

2 Green Investment (ESG投資)

ESG投資や投融資先とのエンゲージメントを通じて、脱炭素社会への移行を促進

インパクト投資の実践

(By 2025)

GHG排出量^(※4)ベースで70%を超える投資先とのエンゲージメント^(※5)を実施

(By 2050)

投融資ポートフォリオのGHG排出量ネットゼロ

3 Green Operation (自社事業における環境負荷低減取組)

代理店・お客さまを含めたバリューチェーン全体の脱炭素化を支援

DXによる業務のペーパーレス化を推進

お客さまの自動車修理時のリサイクル部品活用推進

MS&ADグリーンアースプロジェクト^(※6)を通じた環境負荷低減取組

(By 2025)

全自社ビルLED照明導入、社有車100%電動化、自社ビルへの太陽光パネル設置

(By 2030)

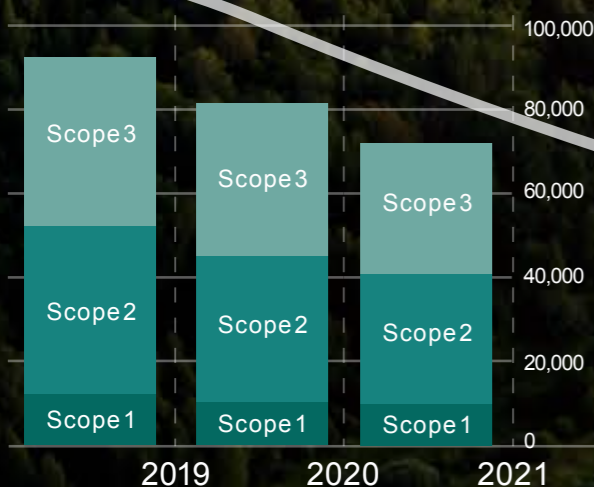
自社ビルの再生可能エネルギー導入率60%、全自社ビルの空調設備高効率化

(By 2040)

自社ビルの再生可能エネルギー導入率100%

温室効果ガス排出量

93,471-CO2 80,831-CO2 73,161t-CO2



2030

Scope 1,2 ▲50%
(2019年度比)

Scope 3 ▲50%
(2019年度比)
(カテゴリー1,3,5,7,13)

2040 Scope 1,2
ネットゼロ

2050

Scope 1,2,3
(all) ネットゼロ

カーボンニュートラル社会の実現へ

(※1) Scope 1,2 (※2) 気候変動対策や自然資本・生物多様性の保全・回復に資する当社の商品・サービスを「グリーン商品」と定義 (※3) 「グリーン商品」の引受、および再生可能エネルギー発電設備、EV(電気自動車) / FCV燃料電池自動車等を対象とする保険引受 (※4) 温室効果ガス(Greenhouse Gas) (※5) 当社の株式ポートフォリオにおけるGHG排出量(上場株式投資先のScope 1+2)の70%にあたる投資先と建設的な対話を実施 (※6) eco保険証券やWeb約款などの環境負荷低減取組の件数に応じて、地球環境保護プロジェクト等に寄付する制度